

カンナとオンナ

北大路魯山人

青空文庫

ひぐらしの鳴き声が涼しい。

わたしは、わたしのテーブルの前に坐すわって料理をし、客はわたしのテーブルの前に坐すわっていた。

わたしは、料理をいつも自分で作りつつ食べ、客にもすすめる。客は詩人であった。

どんな詩をつくるのかわたしは知らぬ。その詩人も、見せたこととはないし、わたしも、見せてくれといったこととはない。詩人だか、死人だか、わたしは知らぬ。ともかくも、詩人であるということだ。

わたしはビールを飲む。ビールだけ飲む。風呂から上がって、

まだ、体に湯気が上がっている中にビールを飲むのはうまいものだ。

わたしの坐っているうしろには、紙を細く切つて、それに、全国から集まった材料や、名産の名前が書いてある。新しく送られた品は、すぐ、この細い紙に書き入れられて張られる。だから、それを見ると、いま、どんなものがあるか、なにが品切れかということが、すぐに分るようになっている。

詩人は、それを念入りに読んでいる。

詩をよむつもりでよんでいるのかもしれない。この男の詩はしないが、詩人だつて、食事はするだろう。いや、非常によく分るはずだ。鳥や、花の心が詩人には分るはずだから……。

わたしはビールを飲む。詩人はウイスキーを飲んでいる。

わたしは、出来上がった料理にかけるため、かつおぶしをけずる。カンナを使ってけずる。

詩人は、目を見張っていう。

「先生、ずい分、立派なカンナですね。まるで、大工が使うような、カンナですね」

「これは、大工たちが使うカンナの中のいちばん上等だよ」

「へえ、もつたいないですね」

「どうしてももつたいないのだ」

わたしは、不思議そうに詩人を見た。

詩人も、上等のカンナでかつおぶしをけずるわたしを不思議そ

うにみている。

「先生、そんな立派なカンナなら、なにも、かつおぶしをおけずりにならなくとも、立派に、大工道具につかえるではありませんか」

「大工道具に、立派に使えるほどの上等だから、かつおぶしがけずれるんだよ」

しばらくわたしの手許てもとを見ていた詩人はつくづくといった。

「先生の、料理がおいしいのは、先生が、ぜいたくをしているからですよ。きっと、そうですね、やっぱり、料理は、金をかけないとダメですね」

わたしはだまって、かつおぶしをかきおわ了ると、一杯ビールを飲

みほして、しゃべり出していた。

「およそ反対だね、君のいうことは……詩人には、金のねうちは分らんと見える」

わたしは、かきあげたかつおぶしを詩人に見せた。かつおぶしは、うすい、うすい雁皮のように、湯上がりの乙女の肌のように……。

「やあ、きれいだな。芸術品ですね、先生」

「そうだ、料理は芸術だよ」

わたしは語をついだ。

「かつおぶしを買う時はどうだ、いやこつちの方が大きくて安いだとか、同じねだんなら、こつちがいいとか、それこそ、大騒動

をして買うくせに、それを、さて、使う段になるとどうだ。まるで、金を捨てているようなものだ。かつおぶしは、けずればへつてなくなる。だが、カンナは一度買えば一生は使えるものだ。うすく、うすく、このようにかいてごらん。だしを出すにも、ほんのちよつぴり、つまんで入れれば、おいしいだしが出る。ものにふりかけても、おいしいし、美しい。カンナは買う時は少々高くとも一生使えるし、便利だ。こんなカンナで、かつおぶしをけずって使つてごらん。変なかつおかきでかいて使う何倍も、おいしくて、美しくて経済的だ。せつかくの高いかつおぶしを買う時は、大騒動して、さてそれを、ほんとうに粗末に、もつたないような使い方をしているひとがある。ぜいたくに、しかもかつおぶし

の本当の味を出さずに、使ううちに、いいカンナでかいて使えば、五本使うところが一本ですむ。その方がどれだけ経済的だか分らん」

詩人は感心してきいていた。

「でも、先生、カンナを、上手に使うのはむずかしいでしょうね」

「変な、安もののかつおかきで、汗をかいて、かつおぶしをきくずごしけずって、木屑や、砂のようなけずり方をするより、上等のカンナでかく方が、どれだけ楽だかしれやしないよ」

「そうですかね。先生、オンナも、カンナと、同じですね」

「どうして」

「いい女房をもらっておけば、一生味がよくて経済的ですね」

「ハハ……なるほど落語の落ちだな。オンナとカンナと似ているね」

わたしはビールを飲んだ。詩人はウイスキーをなめつつ、「オンナとカンナ」と、うたうようにいった。

さぞこの詩人は、こんど、オンナとカンナという詩をつくるつもりだろう。

青空文庫情報

底本：「魯山人の美食手帖」グルメ文庫、角川春樹事務所

2008（平成20）年4月18日第1刷発行

底本の親本：「魯山人著作集」五月書房

1993（平成5）年発行

初出：「独歩」

1953（昭和28）年

入力：門田裕志

校正：noriko saito

2009年12月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

カンナとオンナ

北大路魯山人

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>